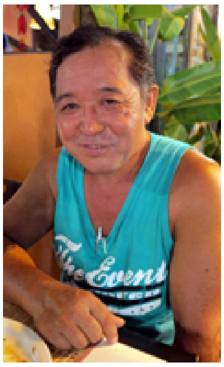

河田さんと三木さん、後ろが由井会長

三木さんは「婦人部は当時５０人ぐらいいたかしら。バザーとか忙しくて、藤間流の先生がサンパウロ市から来てくれて、日本舞踊もみんなで習っていた」と懐かしそうに思い出す。「今は老人会が一番の楽しみ」とニッコリ笑顔を浮かべた。

０８年の百周年時はカラグアでも盛大に祝ったという。当時会長だった原田アントニオさん（６３、二世スザノ生まれ）は、市の方から申し入れがあって文化センターで百周年記念展示をしたという。「昔の移民が持ってきた行李とか鍋、大工道具を並べた」という。他にも「会館に高齢者を集めてお祝いしたり、ロータリークラブで記念晩餐会もした」というからにぎやかだ。

河田律子さんのホテルや原田さんの名前にもあるように、市街地を見下ろす丘の上には、町の守護聖人サントアントニオの像が立っている。地元タクシー運転手に「何か云われはないのか」と訊くと、縁結びの聖人だけあって「独身者がお参りに行くと１カ月で結婚できる、膝で登ったら一週間だ」という言い伝えがあるとか。「俺も１カ月以内で結婚したから間違いない」と太鼓判を捺した。

「年末年始の一カ月間で８０万人の観光客が訪れる。町の人口の１０倍だよ」と観光地としての繁盛ぶりを強調した。

日本食レストランは４、５軒あるが日系人経営１軒程度とか。海辺の町だから海産物が新鮮だろうとほめると、「エビとかイワシは地元でとれるが、実は刺身にするような魚はウバツーバかセアザから持ってくる」とか。観光産業の拡大と共に町も大きくなっているようだ。

（つづく、深沢正雪記者）